

平成22年 2月 4日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18510230
 研究課題名（和文） 未婚女性の将来不安の克服に向けた新しい家族とシティズンシップに関する研究
 研究課題名（英文） Rethinking of Citizenship and Family for Empowerment and Welfare for Single Women in Japan
 研究代表者
 牟田 和恵（MUTA KAZUE）
 大阪大学・人間科学研究科・教授
 研究者番号 80201804

研究成果の概要：

未婚化・晩婚化の進行、および厳しい社会経済的状況のなかで、女性は、現状においても、就業の不安定さを抱えており、将来についても漠然とした不安を抱いている。彼女たちが将来、アンダークラスとなり社会的危機を招くのを避けるためには、従来の性愛と血縁による家族形態を超える生きる基盤作りと家族のオルタナティブを創成していくことが重要である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	810,000	4,410,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：ジェンダー、貧困の女性化、未婚女性、シティズンシップ、親密圏、レズビアン、

1. 研究開始当初の背景

日本社会では、未婚女性の数が増大しているが、その一定層が将来も未婚にとどまることが予測される。これらの女性たちは、比較的若い時代は、親と同居するなどの利点を生かして娯楽や趣味を楽しみ未婚生活を享受しうが、加齢にしたがって、彼女たちは、周縁的労働市場のなかでもより不利な立場となり、親の経済的保護を失い、場合によっては老親介護の責をになわねばならない時

期が来ることは自明である。しかも、そのような女性たちの多くは低年金あるいは無年金であることが予測される。つまり、近い将来、日本社会には、社会経済的困難を抱えた未曾有の数の未婚独居中高年女性の層が出現することが予測され、これらの人々にとっての生きる基盤の創成が求められる。

また、同時に、これら未婚者の増大は、何ごとにおいても行動と選択の自由が高まった社会の中で、家族形成が、生まれおちた家

族を離れるとなると、永続を期待される婚姻によるのみであるという、「窮屈さ」が、結婚へのハードルを上げているという点が、人口動態調査等によってもあきらかになっているところである。このことから、血縁や性愛にのみよるのではない、家族のオルタナティブとなる、多様な生きる基盤の創成が求められる。

2. 研究の目的

上記の事態は、当人たちにとってだけでなく、日本社会における危機であり、事前の対策が求められる。そのため、

(1) 30代以上の未婚女性群の実態把握を行い、彼女たちの抱えている将来予測を明らかにし、潜在している危機を、マクロデータおよびミクロデータから浮き彫りにする。

(2) オルタナティブな生の基盤の可能性を理論的に探る。

(3) 「家族」を超えるオルタナティブな暮らしの実践についてその具体像を検討する。

3. 研究の方法

新しい親密圏と家族・ケアの倫理、ニーズ解釈をめぐる政治に関する文献研究、
単身女性対象のインターネット調査、
海外就労未婚女性のインタビュー調査、
海外レズビアンコミュニティ調査

4. 研究成果

おもに以下の三点の研究成果が得られた。

I 生のオルタナティブの実践

未婚化・晩婚化の進行で、女性の将来不安が高まっているなかで、従来の性愛と血縁による家族形態（これを「ジェンダー家族 gendered family」と名付けた）を超える生きる基盤作りと家族のオルタナティブを創成していくことが重要である。現在、その試みとして、コレクティブハウジング、シェアハウジング、ゲイ・レズビアン家族等々の生活実践が日本でも始まりつつあり、それらが提示している可能性に着目することが重要である。具体的な知見は以下のとおりである。

1) とくにイギリス・アメリカでのゲイ・レズビアンコミュニティにおいては、血縁・

性愛の絆を超えた、「選び取る家族 family of choice」と呼ぶべき生の協同コミュニティの広がりがみられ、個人を支えるネットワークとして機能している。

2) 2000年代初めから日本でも、コレクティブハウジングの実践が登場した。現在はまだ組織的に行われているのは、東京のNPO法人コレクティブハウジング社をコーディネータとする、少数のコレクティブハウスにとどまるが、そこでは、多様な世代とライフステージの人々による生活の協同実践がみられ、同時に、地域社会への資源となっている点も見逃せない。

3) シェアハウジングは、とくに、若い世代で関心が高まり、インターネットの活用、既存業者の参入もあって、広がる兆しをみせている。シェアハウジングは、若者たちにとって、対人関係技法と社会参加への道筋を学ぶ上でも効果的である。

以上の試みは、少子化時代の育児、高齢社会における介護問題への対応という点でも注目すべきである。

II 単身女性の不安と生の基盤

単身女性対象インターネット調査からは、多くが職業・経済上の漠然とした不安を抱えていること、「自分に合った仕事」を求めていること、転職経験が多いこと、シングルマザーが多く含まれることが確認できた。さらに、こうした未婚女性の一タイプとしてある、海外で就労する女性たちの存在に注目、インタビュー調査を行ったところ、日本の職場での閉塞感・見通しの無さから海外に就業先を求めており、満足度は高いが、彼女たちの将来見通しは必ずしも明るいものとはいえないことがわかった。これらのことから、未婚女性のセーフティーネットとしての、家族のオルタナティブを実現することの重要性がさらに浮き彫りになった。

III ケアの倫理と社会正義

若手大学院生を加えた研究会を継続し、E.Kittayの*Love's Labor: Essays on Women, Equality, Dependency* (1998) 他のフェミニスト倫理学に関する海外文献を講読し、I,IIで述べた、生の基盤を構想するにあたっての理論形成を議論した。

これまで、社会正義の実践の理論としてはジョン・ロールズの『正義論』が前提となってきたが、そこにおいては「依存者」、および、依存者をケアする「依存労働者」がまったく位置付けられていないこと、新たな平等と正義の実現する社会の構築においては、そ

これらの立場を組み込んだ「依存とケアの正義論」が構想されるべきであることを確認した。

この点は、女性の貧困問題を考えていく上でとくに重要な論点であり、新しい家族とシティズンシップの構想においては、不可欠かつ中心的となるべき概念である。

このほか、本研究課題研究グループによって、以下の情報発信を行った。

①日本研究・レズビアンスタディーズで著名なジェニファー・ロバートソン教授（ミシガン大学）を招いての、未婚女性に関する拡大研究会を行った（平成19年2月8日）

②韓国女性開発院（ソウル）において、日韓の若年女性労働および未婚化について、報告と討議を行った（平成19年3月15日）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

①岡野八代、家族の時間・家族のことば——政治学から/ 政治学への接近の可能性、『現代思想』第37巻2号、2009、180-199。
（査読無し）

②牟田和恵、家族のオルタナティブ—家族研究の挑戦—、『家族社会学研究』vol. 20, No. 1、2008、7-9。（査読有り）

③岡野八代、フェミニズムにおける公共性「問題」、『立命館法学』第6号（316号）、2008、38-61。（査読無し）

④岡野八代、尊厳と二四条の可能性、『法の理論』27号、2008、53-75。（査読有り）

⑤岡野八代、シティズンシップ論再考——責任論の観点から——、『年報政治学』2007年

2号、122-141。（査読有り）

⑥岡野八代、フェミニズムの新しい波、『女性・戦争・人権』第10号、2007、66-95。（査読有り）

⑦岡野八代、承認の政治に賭けられているもの——解放か権利の平等か、『法社会学会』64号、2006、60-76（査読有り）

〔学会発表〕（計 7 件）

①牟田和恵、「ジェンダー家族のポリティクス」第17回日本家族社会学会、札幌学院大学、2007年9月8日

②岡野八代「家族のことば、家族の時間」第17回日本家族社会学会、札幌学院大学、2007年9月8日

③岡野八代、家族族からの自由/ ファミリーへの自由、御茶の水大学 COE シンポジウム「家族の境界」お茶の水女子大学、2006年11月18日

④ Okano, Yayo, “A Political Challenge From the Perspective of Domestic Labor.”（オーガナイズ・総合司会）世界政治学会 IPSA、福岡市、2006年7月12日

⑤岡野八代、「シンポジウム アンペイドワークとセックスワーク」（総合司会）『女性・戦争・人権学会』近畿大学、2006年6月18日

⑥牟田和恵、近現代日本の生/性の政治とジェンダー家族、『比較家族史学会』、お茶の水女子大学、2006年5月21日

⑦岡野八代、規範理論における家族、『比較家族史学会』、お茶の水女子大学、2006年5月21日

〔図書〕(計 5 件)

- ①牟田和恵(編著)、『家族を超える社会学』
新曜社、2009、全 212 頁
- ②岡野八代、家族からの出発、『家族を超える社会学』所収、新曜社、2009、33-63
- ③牟田和恵、グローバリゼーションと家族の変容、『フェミニストポリティクスの新展開』
所収、明石書店、2007、129-153
- ④岡野八代、女から生まれる——「家族」からの解放/「ファミリー」の解放、『ジェンダー研究のフロンティア Frontiers of Gender Studies』所収、2007、明石書店、50-57。
- ⑤岡野八代、平和を求める——安全保障からケアへ——、『悪と正義の政治理論』所収、
ナカニシヤ出版、2007、214-241。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

牟田和恵 (MUTA KAZUE)
大阪大学・人間科学研究科・教授
研究者番号: 80201804

(2) 研究分担者

岡野八代 (OKANO YAYO)
立命館大学・法学部・教授
研究者番号: 70319482

(3) 連携研究者